

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301115		
法人名	有限会社 フロンティア		
事業所名	グループホーム 久米 (ユニット)		
所在地	岡山県津山市久米川南2551-2		
自己評価作成日	平成22年11月10日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3370301115&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成22年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が行くべき目標はしっかりと共有してケア統一を図りながら、利用者一人ひとりに合わせた支援を行っています。
 365日24時間対応可能な協力医との連携で利用者がホームで安心して暮らせるよう支援しています。
 管理者が中心となって職員と一緒にケアマネージメントや運営について新しい取り組み方を考え、ホーム全体にも反映しています。又、地域との交流を大切に積極的に取り組み、協力を得ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

津山市は、同一敷地内に同じ法人の運営する1ユニットのグループホームが2軒建っている所が比較的多くあり、平成18年頃にそれを2ユニットのホームにするよう指導した事がある。このホームもその一つで、単独のホームが広い敷地の中に比較的隔たりのある立地で2ユニットがある。このような独立した建物の配置なので、ユニットの独自性が強く、ユニットとしての融合や交流が出来難いのが気にかかるが、運営推進会議や消防・避難訓練は一緒にしているので、日常の運営は別々にしても、行事等合同でしながら両方の交流を徐々に進めていくことができると思う。人間の周りを見て仲良く出来る空間の適度な距離があるように、家でも隣りの家、共同の家としての距離も適度な距離であると思う。このホームの距離はその適度な距離が離れすぎている所もあると思う。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を大切にその人らしい生活を送って頂けるよう支援している。その為にミーティングや運営推進会議で理念の理解を深め、工夫としてはその人の発する言葉等を大切に、意見の統一を図り評価を行っている。	代表者からも理念について時々皆で確認するよう指導を受け、常に理念を意識した支援を心掛けている。“理念をケアの質向上にいかにつなげるか”職員間で具体的な話し合いもしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校や地域の行事に利用者と一緒に参加し、交流を持っている。日常的に散歩や買物に出掛け挨拶を交わしたり、又、自家作りの野菜や花の差し入れがあったりする。	ボランティアの手品刷問が定着し、地元中学校から文化祭の招待を受け、地域の納涼祭に出掛ける等、出来る事から交流に努め、秋祭りのだんじりもホームに立ち寄る等、自然な付き合いが広がっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れを行っている。地域の方々から認知症の相談を受けることもある。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	質問・意見・要望を出してもらい、意見交換し、検討勘案事項は報告し、一つ一つ積み上げている。	ホームは運営推進会議の出席者の増員を目標達成計画に掲げ、積極的に地域に働きかけた。保育園園長や交番巡査員等の参加を得て、地元の声を改善につなげて信頼を深め、地域に向けて緊急サイレンも設置出来た。	21年度の目標達成計画で委員を幅広い層の中から出席して意見を聞きたいと言う事で保育園園長(所長)が加わった。推進会議の活性化について期待できる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には情報提供をしてもらったり、日頃から利用者の暮らしやニーズを伝え、連携を深めている。 (21・目標計画達成)	市の担当職員はホームの運営推進会議に毎回出席し、ホームの現状を把握して指導・助言してくれる。介護保険制度や熱中症について等、その時々状況に合った適切な情報提供をしながらのサポートがある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」をもとに勉強会を実施し、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するため工夫に取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践研修に出席し、勉強会を聞いて全職員に徹底を図っている。利用者本位・利用者に喜んでもらえるケアがホームの大原則で、家族からも「大事にされているのが伝わってくる」と評価された。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族等に運営推進会議を利用して情報提供を行っている。社会福祉協議会などが主催する研修に参加している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明し同意を得ている。制度改正等による場合も相談に応じ、一方的な通達にならないよう心がけています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や手紙、電話などで常に問いかけ、気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りを意識している。	利用者の為にも家族との関係を重視し、家族の声を運営に反映させようとするホームの姿勢は家族の支持を得て、面会や運営推進会議への出席も多い。家族アンケートからも家族の満足度が高いのが分かる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・勉強会を月1回行い、意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけている。	職員自己評価シートを作成し、職員自ら目標行動計画を立て、日々の支援に活用している。代表者は現場を信頼して任せてくれる。今回の自己評価も全職員で話し合っ作成する等、職員意見の反映に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。職員の疲労やストレスの要因について気を配り、勤務時間中にも気分転換できる休憩をしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。研修内容やミーティング等で報告してもらい、共有している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所同士で交換研修や事例検討等を通して勉強会を実施し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人に会って心身や生活状態を把握し、本人の不安や想いに向き合い、その人を良く知ろうと関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談される家族等の話を傾聴し、立場を理解しながら話し合いをしている。家族等の気持ちを受け止める努力をし、関係作りを行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いや状況を確認し、ホームの方針を話す。本人の改善に向けた支援の提案また情報提供を行い、職員が共有しながら対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、お互いが共に支え合い、協働しながら穏やかな生活ができるよう声かけをしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態を報告・相談し、情報交換を密に行うことで協力関係を築く事が出来ている。来訪時はご本人とご家族の潤滑油になるよう心がけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に行き続けている利用者やお墓参りに行く利用者、ご家族と旅行に出掛けられる利用者、又は、地域の行事に参加したり、馴染みの友人に会いに行ったりと継続的な交流が持てるよう働き掛けている。	「おいで、おいで」手招きして自分の横に座るよう仲間を誘う。「あの人、私より年上なのに、今日も時間を掛けてよう食べとる」共に暮らす者同士、互いに認め合い、労り、気遣う馴染みの関係が芽生えていた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間や役割活動等を通して、利用者同士の関係が円滑にいくよう職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合、支援状況や注意点など情報提供し、連携を心がけている。また、機会を作って訪問に行ったり家族からの相談にもっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で発せられる言葉や表情などから真意を推し測ったり、声かけを行い把握に努めている。また、ご家族から情報を得ている。	「こんなにあったんじゃもの、もう食べれん」好物の野菜を残す人がいた。その気にならねば無理強いせず、時間をずらせて上手く誘い、機嫌よく食べ始めて完食する場面を見た。「納得する様説明してくれて、本人も喜んで」家族の声も記録で確認した。	利用者のホームでの生活をする意向や希望の真髓を極める為に、職員の感性をもっと働かせるよう、日頃の利用者が発する言葉(生活記録)から一歩職員の向上をして役立ててもらいたい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のバックグラウンドを知れば知るほどその人への理解につながっていき、また本人の生きがいの見出しにもなる。家族や親戚の人からの情報を大切にしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを理解するとともに、その日の状態のチェックを行い、その人らしく生活していくために、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で要望や思いを聞き、プランに反映させるようにしている。職員全員で意見交換やモニタリング・カンファレンスを行っている。	本人・家族から管理者(計画作成担当者)がよく話を聞き、情報を職員に伝えてプランを作成し、全員で様子を見ながら検証して、現状に合わせて変更している。状態が把握し易いよう様式を改良する等、工夫していた。	介護記録の内容を介護計画立案とモニタリングに直接活かせるように記録の仕方と方式を21年度の目標達成計画にあげて改善をした。これは今後のケアにより活かせるようになり、期待できる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに身体状況及び気づきや状態変化を記録し、職員間の情報共有を徹底している。個別記録を基にプランの見直しを行っている。 (21・目標計画達成)		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況に応じて買物、通院等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域生活を継続していけるよう民生委員や愛育委員や老人会の方々と意見交換する機会を設けている。必要に応じて外部のケアマネとの連携も図っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。365日24時間対応な医療機関と関係を密に結んでいる。	受診は原則として家族にお願いしているが、困難な場合や緊急時はホームで支援している。毎週訪問看護師が来て、月2回主治医の往診がある等、いつでも対応してもらえる体制が出来ているので、家族も安心できる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な事情の変化に応じた支援が行えるよう看護職と連携を取り、適切な医療につなげている。また、訪問看護師と相談し、医療との連携に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援に関する情報を医療機関に提供し、職員が見舞い、家族とも状況等情報交換を行っている。退院前には病院関係者やご家族等を交えてカンファレンスを行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか事業所が対応できる最大のケアについて説明を行い、医師、職員が連携をとり、方針をチームで話し合っている。	代表者からターミナルについての話し合いをしておくよう指示があり、研修や勉強会をした。該当するケースがなくターミナル経験はないが、家族の全面的協力が得られるならば、気持ちに添って出来る限りの支援をしたいと考え、主治医とも話し合い連携体制を確立している	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行政関係者や消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を実施し、職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。地域の消防団にも協力を得て、ホーム内や利用者の把握をしてもらっている。	運営推進会議と避難訓練を同時開催して、出席者からの提案で地域に知らせるサイレンを設置し、地元消防団に視察依頼して、利用者の状況把握・避難経路の検討をして貰う等、具体的な対策を検討出来た。スプリンクラー設置を申請中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものにならない言葉かけをするように努めている。また、その人の守るべき情報は決して漏らさない等、人権意識を徹底している。	ホームは“その人らしさを大切にしたい支援”を心掛け、職員の自己評価シートの項目にも取り入れて、利用者にとって何が一番良いのかを考えながら、日々のケアに活かしている。畑仕事や生花等、特技を発揮できる場も提供していた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけを行い、職員側からの押しつけではなく、複数の選択肢を提案したりして、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。その日の体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し、希望を尋ねながら支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みの美容室で希望に合わせたカットやパーマをしてもらえよう連携をとっている。着替えは本人に選んでいただいたり、職員と一緒に考えて、本人の気持ちに沿った支援を心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に育てた野菜を畑から採ってきて一緒に調理、盛り付けし、職員と利用者が同じテーブルを囲んで雰囲気作りも大切に楽しく食事をしている。	ホームで収穫した食材を活用した旬の野菜たっぷり、品数も多い美味しい食事は、当ホームの“売り”である。職員・利用者皆で一緒に楽しく食べて、好き嫌いがなくなり、食事量も増える等の成果が出ている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。栄養士による栄養バランスに配慮した献立と、摂取の方法や食器の工夫等個別支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声かけ見守りをし、出来ない方に関しては、毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎の防止等に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。	一目で分かるよう工夫した記録で各自の排泄パターンを把握した適切な誘導で、失禁が減る等改善事例も多い。車椅子で立位の取れない人でも、出来る限りの全員便器に座っての排泄を心掛けて支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘の方には腹部マッサージも心がけている。毎食食後にはヨーグルトを提供しており、また、繊維質の多い食材にも気を配り、積極的に運動も行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の有無を確認し、ゆっくりと寛いだ気分で入浴を楽しんでもらっている。	本人の希望聞きながら、2日に一度は入浴してもらうよう誘っている。入浴タイムは大切なマンツーマンでのコミュニケーションの場と考え、会話を楽しみながら、ゆっくり入浴してもらうよう心掛けている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝付かない時には温かい飲み物を飲みながらお喋りをする等配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明を個人ケースに保管し、全職員に分かるよう徹底している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作りや食事作り、お花の手入れや草取り、洗濯物たたみ、色々な手作業等、得意な分野で一人ひとりの力を発揮してもらい楽しんでもらっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外食やお弁当を持って戸外に出掛けたり、一緒に買物に行きます。また、家族に協力してもらって古い友人に会いに出掛けたり、お墓参りにも行きます。	ホームの畑での土いじりや周辺散歩等、日常的な戸外活動だけでなく花見・紅葉狩り等季節の行楽、地域行事、外食やドライブ等にも出掛けている。レベル低下しても、家族の協力を得ながら、出来る限り外出支援をしたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の協力を得て、少額のお金を持っている人もおられる。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう促したり支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら暮らしの場を作っている。</p>	<p>手作りカレンダー・共同作品・楽しそうな利用者の写真・季節感溢れるクリスマスツリー等を飾り、親しみやすい雰囲気が漂っている。食卓の椅子や長ソファ等、利用者達はそれぞれお気に入りの場所で寛いでいた。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファやダイニングテーブル、椅子の配置に配慮したり、絵画や花等の装飾で居心地の良い空間づくりを工夫している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>寝具やタンス、写真や思い出の品々が持ち込まれ、使い馴れた馴染みの物を活かして、その人らしく暮らせる部屋となっている。</p>	<p>洋服ダンスと洗面台は備え付けで、窓からの眺めも良く、全体に明るい感じがする。家族の写真や塗り絵作品を飾る人、テレビ等を持ち込む人、「わしは畳がええから畳入れてもらった」と言う人も居た</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の身体状況に合わせ、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮したりして環境整備に努めている。</p>		